

■ CSRについての基本的考え方

セコムは、「企業と社会が共に持続的に発展することが重要である」との考え方を根底において、

「社業を通じ、社会に貢献する。」

「社会に貢献する事業を発掘、実現しつづける責任と使命を有する。」

「常に革新的でありつづける。」

という企業理念のもと、事業を通じたCSR（企業の社会的責任）を、常にイノベーションの精神を持って創業以来実践してきました。

セコムではCSRを、「戦略的CSR」と「基盤的CSR」に整理し、ステークホルダーの皆様との対話を通じて日々CSR活動に取り組んでおり、ますます高まる社会からの期待と信頼にお応えしています。

■ 戦略的CSR

セコム独自の技術力を活用した商品・サービスを提供し、さまざまな社会課題を解決する取り組みです。

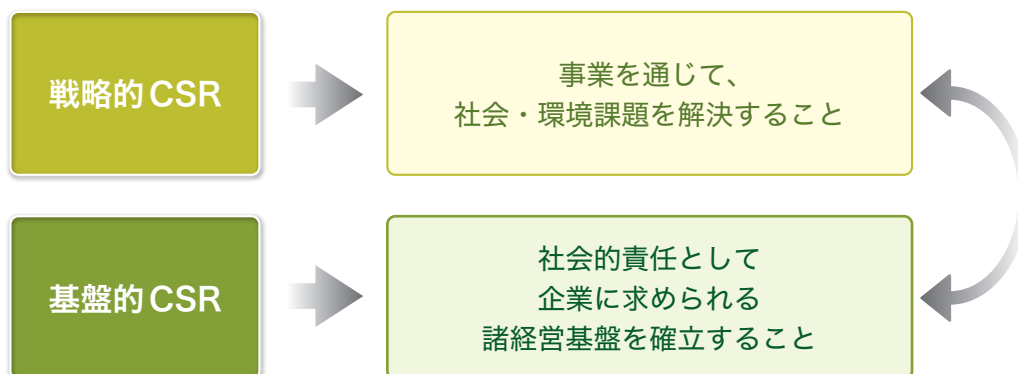
セコムグループの総力を結集させた“ALL SECOM”の取り組みで、「安全・安心」で「快適・便利」につながるサービス・商品を提供するとともに、セコムならではの新たな高付加価値サービスの創出に挑戦しています。

■ 基盤的CSR

社会の公器である企業に求められる「企業統治」「消費者課題」「環境」「労働慣行・人権」「社会貢献」などの諸経営基盤を確立し、信頼を構築する取り組みです。

セコムでは、社会に「安全・安心」を提供するという事業の特性上、セコムの理念や行動が正しく社会から評価され、信頼を得なければ事業は成り立ちません。そのため、コンプライアンスやリスクマネジメントの実践にあたっては、創業時から法令遵守等を超えるセコム独自の厳しい基準で取り組んでいます。

基盤的CSRの具体的な取り組みについて、社会的責任に関する国際規格であるISO26000の主要課題に準じて整理すると次の通りです。



企業統治

・経営の効率性と透明性を高め、長期にわたって企業価値を向上させるために、独立社外取締役の設置などコーポレート・ガバナンスの充実を図り、経営陣主導のもと、コンプライアンス体制の強化と情報開示の徹底などに、積極的に取り組んでいます。

人材育成・労働慣行

・社員一人ひとりが常に自分の意志で生き生きと仕事をして自己実現していくことが、結果として組織の発展につながると考え、社員が個性と能力を伸ばすための独自の教育・研修体系により人材を育成するとともに、人権尊重の社員教育と組織運営を行っています。

・ワーク・ライフ・バランスの充実・向上に注力しており、心身ともに健康で、意欲と情熱を持って日常業務に邁進できるように、法律で義務づけられている以上の手厚い休暇・休業の仕組みなども設けています。

環境

・セコムがめざす安全で快適な暮らしの基盤が地球環境の保全であるという認識のもと、セコムグループで「環境基本理念」「環境基本方針」を共有し、地球温暖化防止や資源有効利用などの環境施策の推進と法令遵守等の強化に取り組んでいます。

・社会への影響とステークホルダーからの関心が高いことから、CO₂排出量の削減を重要課題とし、事業の継続的な拡大を図りつつも、CO₂排出量の総量削減に取り組んでいます。

サービス品質の向上

・セコムならではの高品質なサービスを提供するために、サービスの質や信頼性に直結する社員の知識と技能を高めるための人材育成に取り組んでいます。

・セコムお客様サービスセンターやお客様訪問を通じて寄せられるお客様の声に常に耳を傾け、さらなるサービス品質の向上に努めています。

地域との共生

・雇用の創出や地域社会の発展など、さまざまな形で地域に貢献することも、セコムの使命と考えています。

社会貢献活動

・「安全・安心」をさらに社会に広めていくために、子どもや女性、シニアに対して、防犯意識の啓発をはじめとするさまざまな社会貢献活動を行っています。

共同創業者 取締役最高顧問・戸田壽一を偲んで

当社創業者である戸田壽一取締役最高顧問が、2014年1月30日に逝去しました。戸田は、取締役最高顧問の飯田とは大学の同窓生で、卒業後独立を考えていた2人は、共通の知人から「欧州には警備という仕事がある」と聞き、1962年7月に日本警備保障(株)(現・セコム(株))を設立しました。戸田が30歳、飯田が29歳のときでした。

以来、常に先頭に立って飯田とともにセコムグループの業容発展に尽力しました。



戸田 壽一